



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **11174205 A**(43) Date of publication of application: **02 . 07 . 99**

(51) Int. Cl. **G02B 1/11**
C23C 14/02
C23C 14/08
G02B 1/10

(21) Application number: **09336901**(22) Date of filing: **08 . 12 . 97**(71) Applicant: **SEIKO EPSON CORP**(72) Inventor: **YANO KUNIHICO**
TAKESHITA KATSUYOSHI

(54) **SYNTHETIC RESIN LENS WITH**
ANTIREFLECTION FILM

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To form a primer layer and a dyeable hard-coating layer on a synthetic resin base material and evaporating an antireflection film thereon with a good adhesion property thereto.

SOLUTION: Ion cleaning is executed as pretreatment for vapor deposition and a silicon oxide having the

excellent adhesion property to the hard coating of a silicon system is used as the material of a first layer to be deposited by evaporation. The film thickness of the first layer is made slightly thin, preferably within a range of 1 to 40 nm, by which the internal stress of the vapor deposited film is made smaller. The sufficient assurance of the adhesion property of the antireflection film is made possible.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-174205

(43) 公開日 平成11年(1999) 7月2日

(51) Int.Cl.⁶ 識別記号

G 0 2 B 1/11

C 2 3 C 14/02

14/08

G 0 2 B 1/10

F I

G 0 2 B 1/10

C 2 3 C 14/02

14/08

G 0 2 B 1/10

A

A

N

Z

審査請求 未請求 請求項の数7 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平9-336901

(22) 出願日 平成9年(1997)12月8日

(71) 出願人 000002369

セイコーエプソン株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目4番1号

(72) 発明者 矢野 邦彦

長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内

(72) 発明者 竹下 克義

長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内

(74) 代理人 弁理士 鈴木 喜三郎 (外2名)

(54) 【発明の名称】 反射防止膜付合成樹脂レンズ

(57) 【要約】

【課題】 合成樹脂基材にプライマー層及び可染ハードコート層を形成し、反射防止膜をその上に密着性良く蒸着する。

【解決手段】 蒸着の前処理としてイオンクリーニングを行い、さらに最初に蒸着する第1層目の物質として珪素系のハードコートとの密着性にすぐれた珪素酸化物を使用し、その第1層目の膜厚を薄めにするにより蒸着膜の内部応力を小さくすることにより反射防止膜の密着性を十分に確保することが可能になる。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】合成樹脂からなるレンズ基材上に熱硬化性プライマー層と染色可能な有機成分を含むハードコート層を形成し、その上に無機酸化物からなる多層反射防止膜をイオンクリーニング前処理をおこなってから真空蒸着法により積層したことを特徴とする反射防止膜付合成樹脂レンズ。

【請求項 2】多層反射防止膜の少なくとも基板に接する第 1 層が珪素酸化物質からなり、第 1 層の物理膜厚が 1 ～ 40 nm の範囲にあることを特徴とする請求項 1 記載の反射防止膜付合成樹脂レンズ。

【請求項 3】前記イオンクリーニング前処理が真空中で酸素イオンを加速して照射する処理であることを特徴とする請求項 1 記載の反射防止膜付合成樹脂レンズ。

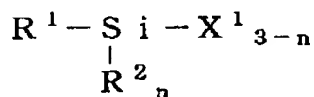
【請求項 4】前記熱硬化性プライマー層がポリウレタン樹脂からなることを特徴とする請求項 1 記載の反射防止膜付合成樹脂レンズ。

【請求項 5】前記ハードコート層が下記 (A) および (B) 成分を含有することを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の反射防止膜付合成樹脂レンズ。

(A) . 粒径 1 ～ 100 ミリミクロンの Si, Al, Sn, Sb, Ta, Ce, La, Fe, Zn, W, Zr, In 及び Ti からなる群より選ばれる 1 種以上の金属の酸化物からなる微粒子および／または Si, Al, Sn, Sb, Ta, Ce, La, Fe, Zn, W, Zr, In 及び Ti からなる群より選ばれる 2 種以上の金属の酸化物から構成される複合微粒子

(B) . 一般式

【化 1】

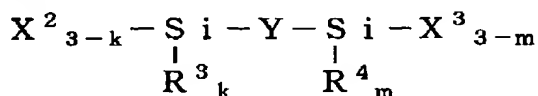


で表される有機ケイ素化合物（式中、R¹は重合可能な反応基を有する有機基であり、R²は炭素数 1 ～ 6 の炭化水素基であり、X¹は加水分解性基であり、n は 0 または 1 である。）

【請求項 6】前記ハードコート層が下記の成分 (C) を含有することを特徴とする請求項 5 記載の反射防止膜付合成樹脂レンズ。

(C) . 一般式

【化 2】



で表される有機ケイ素化合物（式中、R³、R⁴は炭素数 1 ～ 6 の炭化水素基であり、X²、X³は加水分解性基であり、Y はカーボネート基またはエポキシ基を含有する有機基であり、m は 0 または 1 である。）

【請求項 7】前記ハードコート層が下記 (D) 成分を含有することを特徴とする請求項 5 記載の反射防止膜付

成樹脂レンズ。

(D) . 多官能性エポキシ化合物

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、眼鏡レンズ、カメラレンズ等に用いられる、染色可能なハードコートに反射防止膜が蒸着され、かつ耐衝撃性に優れた合成樹脂製レンズに関する。

【0002】

【従来の技術】合成樹脂を基材とするレンズは軽くて割れにくいという特徴が有るため眼鏡レンズ、カメラレンズなどに広く用いられてきた。また無機ガラスに比べて傷つきやすいという欠点を補うために表面に珪素を含有する有機物に、無機物の微粒子を分散させたハードコーティングを施すことや、表面反射によるゴーストやちらつきを抑えるために無機酸化物の多層反射防止膜を蒸着することがよく行われている。

【0003】またレンズに着色したり、紫外線をカットする機能を持たせるためにレンズに染色剤を含ませる処理も用途に応じて施される。多様な色合いや吸収率などの要求に答えるにはレンズ基材とハードコートは無色透明に近いものとしておき、レンズの表面から染色剤を浸透させる方法をとれることが望ましい。このためにハードコートの成分に染色可能にする多官能エポキシ化合物等の有機成分をあらかじめ含ませておくことが行われる（特開昭 61-245101 参照）。

【0004】さらに硬質なハードコートを合成樹脂に塗布する下地としてアクリル系樹脂やポリウレタン樹脂等のプライマー層を施すことができる。基材とハードコートとの密着性を高める効果と、柔軟なプライマー層により外部から加わった衝撃を吸収したり硬質なハードコートや反射防止膜から生じた割れをくい止める作用により、著しくレンズの耐衝撃性を高める効果がある（特開昭 61-251801 号、特開昭 63-141001 等参照）。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながらこのような要求を全て満たすために合成樹脂レンズ基材にプライマー層、染色可能ハードコート層を形成し、反射防止膜をその上に蒸着した場合に蒸着膜の密着性が不十分で耐久性が劣ってしまう問題があった。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明では以下のものを組み合わせることにより上記の問題を解決した。すなわち、合成樹脂レンズ基材に熱硬化性プライマー層及び染色可能ハードコート層を形成し、反射防止膜をその上に蒸着するときに、蒸着の前処理としてイオンクリーニングを行い、さらに最初に蒸着する第 1 層目の物質としてハードコート層との密着性にすぐれた珪素酸化物を使用し、その第 1 層目の膜厚を薄めにするにより蒸着膜

の内部応力を小さくすることにより反射防止膜の密着性を十分に確保することが可能になる。

【0007】本発明で使用する熱硬化性プライマー層として、ポリウレタン系樹脂、ポリビニルアセタール系樹脂、アクリル酸系樹脂、酢酸ビニル系樹脂、アミノ系樹脂、シリコン系樹脂、エポキシ系樹脂、ポリエステル系樹脂、ポリアミド系樹脂、ビニルアルコール系樹脂、スチレン系樹脂、メラミン系樹脂およびこれらの混合物もしくは共重合体等が挙げられる。

【0008】染色性、耐衝撃性の向上を考慮すると、ポリウレタン系樹脂のプライマー層が好ましい。その具体例として、両末端に活性水素含有化合物とポリイソシアネート化合物との反応から形成されるものである。活性水素含有化合物としては、ポリアルキレングリコール類、ポリブタジエングリコール類、ポリアルキレンアジペート類、ポリブタジエングリコール類、ポリアルキレンカーボネート類、シリコンポリオール、ポリエステルポリオール、アクリルポリオール等のポリオール化合物が挙げられる。ポリイソシアネート化合物としては、脂肪族系ポリイソシアネート、芳香族系ポリイソシアネート、水添キシレンジイソシアネート、 β -ジケトン・オキシム・フェノール・カプロラクタム等でブロックされたブロック型ポリイソシアネート等が挙げられる。

【0009】また、プライマー層には、レンズ基材とプライマー層の屈折率を調整するために無機物酸化物微粒子を成分として含ませることができる。具体的例としては、 SiO_2 、 Al_2O_3 、 SnO_2 、 Sb_2O_5 、 Ta_2O_5 、 CeO_2 、 La_2O_3 、 Fe_2O_3 、 ZnO 、 WO_3 、 ZrO_2 、 In_2O_3 、 TiO_2 の無機酸化物微粒子が、分散媒たとえば水、アルコール系もしくはその他の有機溶媒にコロイド状に分散させたものである。または、これら無機酸化物の2種以上によって構成される複合微粒子が水、アルコール系もしくはその他の有機溶媒にコロイド状に分散したものである。いずれも粒子径は約1~300nmが好適である。

【0010】次に染色可能ハードコート層としては、メラミン系樹脂、シリコン系樹脂、ウレタン系樹脂、アクリル系樹脂等が挙げられるが、シリコン系樹脂が最も好ましい。具体的には下記の成分より構成されるハードコート層の成分(A)として粒径1~100ミクロンのSi、Al、Sn、Sb、Ta、Ce、La、Fe、Zn、W、Zr、In及びTiからなる群より選ばれる1種以上の金属の酸化物からなる微粒子および/またはSi、Al、Sn、Sb、Ta、Ce、La、Fe、Zn、W、Zr、In及びTiからなる群より選ばれる2種以上の金属の酸化物から構成される複合微粒子を成分として含ませる。いずれも粒子径は約1~300nmが好適であり、本発明のハードコート層への適用種及び使用量は目的とする被膜性能により決定されるものであるが、使用量は固形分の10~50重量%で

あることが望ましい。すなわち、10重量%未満では、無機蒸着膜との密着性が不充分となるか、もしくは、塗膜の耐擦傷性が不充分となる。また50重量%を越えると、塗膜にクラックが生じる。また、染色性も不充分となる。

【0011】ハードコート層の成分(B)の有機ケイ素化合物は、 R^1 は重合可能な反応基を有する有機基であり、ビニル基、アリル基、アクリル基、メタクリル基、エポキシ基、メルカプト基、シアノ基、イソシアノ基、アミノ基等の重合可能な反応基を有するシラン化合物であり、 R^2 は炭素数1~6の炭化水素基であるが、その具体的例としては、メチル基、エチル基、ブチル基、ビニル基、フェニル基等が挙げられる。また X^1 は加水分解可能な官能基でありその具体的なものとして、メトキシ基、エトキシ基、メトキシエトキシ基等のアルコキシ基、クロロ基、プロモ基等のハロゲン基、アシルオキシ基等が挙げられる。このシラン化合物の具体例として、ビニルトリアルコキシシラン、ビニルトリクロロシラン、ビニルトリ(β -メトキシエトキシ)シラン、アリルトリアルコキシシラン、アクリルオキシプロピルトリアルコキシシラン、メタクリルオキシプロピルトリアルコキシシラン、メタクリルオキシプロピルジアルコキシメチルシラン、 γ -グリシドオキシプロピルトリアルコキシシラン、 β -(3,4-エポキシシクロヘキシル)-エチルトリアルコキシシラン、メルカプトプロピルトリアルコキシシラン、 γ -アミノプロピルトリアルコキシシラン、N- β -(アミノエチル)- γ -アミノプロピルメチルジアルコキシシラン等がある。この(B)成分は、2種以上混合して用いてもかまわない。

【0012】(B)成分の使用量は、全組成物の20~60重量%であることが望ましい。すなわち、20重量%未満であると、無機蒸着膜との密着性が不充分となりやすい。また60重量%を越えると、硬化被膜にクラックを生じさせる原因となり好ましくない。

【0013】ハードコート層の成分(C)の有機ケイ素化合物については、前記一般式2において、 R^3 、 R^4 は炭素数1~6の炭化水素基であるがその好ましい具体例としては、メチル基、エチル基、ブチル基、フェニル基等が挙げられる。また、 X^2 、 X^3 は、加水分解可能な官能基であり、好ましい具体例としては、メトキシ基、エトキシ基、メトキシエトキシ基等のアルコキシ基、クロロ基、プロモ基等のハロゲン基、アシルオキシ基等が挙げられる。また、Yはカーボネート基またはエポキシ基を含有する有機基である。成分(C)の使用量は固形分の3~40重量%であることが望ましい。すなわち、3重量%未満では、染色性と無機蒸着膜との各種耐久性の双方を同時に満足させることができない。また40重量%を超えると、塗膜の耐水性が悪くなる。また、塗液のポットライフも短くなる。

【0014】またハードコート層には染色可能にする役

割と同時に耐水性・耐温水性の向上させるため多官能性エポキシ化合物を成分(D)として含ませる。これは塗料、接着剤、注型用などに広く実用されているもので、例えば過酸化法で合成されるポリオレフィン系エポキシ樹脂、シクロペンタジエンオキシドやシクロヘキセンオキシドあるいはヘキサヒドロフタル酸とエピクロロヒドリンから得られるポリグリシジルエステルなどの脂環式エポキシ樹脂、ビスフェノールAやカテコール、レゾシノールなどの多価フェノールあるいは(ポリ)エチレングリコール、(ポリ)プロピレングリコール、ネオペンチルグリコール、グリセリン、トリメチロールプロパン、ペンタエリスリトール、ジグリセロール、ソルビトールなどの多価アルコールとエピクロロヒドリンから得られるポリグリシジルエーテル、エポキシ植物油、ノボラック型フェノール樹脂とエピクロロヒドリンから得られるエポキシノボラック、フェノールフタレインとエピクロロヒドリンから得られるエポキシ樹脂、グリシジルメタクリレートとメチルメタクリレートアクリル系モノマーあるいはスチレンなどの共重合体、さらには上記エポキシ化合物とモノカルボン酸含有(メタ)アクリル酸とのグリシジル基開環反応により得られるエポキシアクリレートなどが挙げられる。具体的には1,6-ヘキサジオールジグリシジルエーテル、ジエチレングリコールジグリシジルエーテル、トリメチロールプロパンジグリシジルエーテル、トリメチロールプロパントリグリシジルエーテル、グリセロールジグリシジルエーテル、グリセロールトリグリシジルエーテル、トリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレートとトリグリシジルエーテル等の脂肪族エポキシ化合物が特に好ましい。成分

(D)の使用量は、全組成物の5~40重量%であることが必要である。すなわち5重量%未満であると塗膜の耐水性が不十分となる。また、40重量%を越えると無機蒸着膜との密着性が不十分となりやすく、好ましくない。

【0015】尚、本発明のプライマー層およびハードコート層は、上記成分の他に必要に応じて、少量の界面活性剤、帯電防止剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、分散染料・油溶染料・蛍光染料・顔料、フォトクロミック化合物、ヒンダードアミン・ヒンダードフェノール系等の耐光耐熱安定剤等を添加しコーティング液の塗布性および硬化後の被膜性能を改良することもできる。

【0016】さらに、本発明のプライマー層およびハードコート層の塗布にあたっては、基材レンズと被膜の密着性を向上させる目的で、基材表面をあらかじめアルカリ処理、酸処理、界面活性剤処理、無機あるいは有機物の微粒子による研磨処理、プライマー処理またはプラズマ処理を行うことが効果的である。

【0017】また、塗布・硬化方法としては、ディッピング法、スピンナー法、スプレー法あるいはフロー法によりコーティング液を塗布した後、40~200℃の温

度で数時間加熱乾燥することにより、被膜を形成することができる。特に熱変形温度が100℃未満の基材に対しては治工具でレンズ基材を固定する必要のないスピンナー法が好適である。

【0018】続いて反射防止膜を蒸着する。蒸着前の前処理としてイオンクリーニング処理を行うことが密着性を向上させるために有効である。本発明で用いるイオンクリーニング処理は真空蒸着機の真空槽に加速したガスイオンを基板に照射できるイオン銃を設置して行うもので、イオン化するガスとして表面を活性化作用の強い酸素ガスを用いる。槽内を高真空に保った状態で処理を行う事により蒸着膜をつける前に基板の表面を活性化状態にしておくことができる。

【0019】また、反射防止膜の基板に最初につける第1層目の物質としては SiO_x ($x=1.0\sim2.0$)であらわされる基板との密着性がすぐれた珪素酸化物質を用いる。蒸着した膜は膜厚に比例して内部応力が大きくなり密着力が低下してしまうため、この第1層の物理膜厚は1~40nmの範囲とすることで反射防止膜全体の膜厚を薄目にして密着力を確保する。反射防止膜の膜構成は設計波長 λ に対して3層の $\lambda/4-\lambda/4-\lambda/4$ あるいは $\lambda/4-\lambda/2-\lambda/4$ の光学膜厚を基本構成とし、基板や蒸着膜の屈折率に応じて反射防止性能が得られるように各層の膜厚を調整して、総膜厚を物理膜厚で200~300nm程度にする。

【0020】蒸着する材料として SiO_2 , SiO , ZrO_2 , TiO_2 , TiO , Ti_2O_3 , Ti_2O_6 , Al_2O_3 , Ta_2O_5 , CeO_2 , MgO , Y_2O_3 , SnO_2 , MgF_2 , WO_3 などが挙げられる。これらの無機物は単独で用いるかもしくは2種以上の混合物を用いる。また基板の屈折率にあわせて1層目の $\lambda/4$ の膜を3層の等価膜に置き換えて計5層の膜構成とすることも可能である。光学的な分光反射率の特性や表面の傷つきにくさを向上させるために、これ以上反射防止膜の層数を増やして層膜厚が300nm以上になったり、第1層の膜厚を40nm以上に厚くしてしまうと密着力の確保が難しくなる。

【0021】

【発明の実施の形態】(実施例1)

(1)プライマー組成物の調製

ブチルセロソルブ11.15kgに市販のポリエステルタイプのポリオール「デスモフェン670-80B」

(住友バイエルウレタン(株)製)480gおよび市販のブロック型イソシアネート「デスモジュールLS-2759」(住友バイエルウレタン(株)製)1900gおよびシリコン系界面活性剤「L7604」(日本ユニカー(株)製)10gを混合し充分に攪拌を行ないプライマー組成物とした。

【0022】(2)ハードコート組成物の調製

イソプロピルセロソルブ342g、純水100gおよび

メチルセロソルブ分散 SiO_2 微粒子ゾル（触媒化成工業（株）製、商品名「オスカル1832」固形分濃度30wt%）338gおよびγ-グリシドキシプロピルトリメトキシシラン92gおよびビス[3-（ジエトキシメチルシリル）プロピル]カーボネート31gを混合した。この混合液に0.1N塩酸水溶液37gを攪拌しながら滴下した。さらに5時間攪拌後、この液に1,6-ヘキサジオールジグリシジルエーテル（ナガセ化成工業（株）製、商品名「デナコールEX-212」）63gおよび $\text{Fe}(\text{C}_5\text{H}_7\text{O}_2)_3$ を3.2gおよび $\text{Mn}(\text{C}_5\text{H}_7\text{O}_2)_3$ を1g、シリコン系界面活性剤（日本ユニカー（株）製、商品名「L-7604」）0.3gを添加し4時間攪拌後一昼夜熟成させて塗液とした。

【0023】（3）塗布および硬化

このようにして得られた塗液で、屈折率1.67のウレタン樹脂製眼鏡レンズ（セイコースーパーソプリン）に、プライマー層：10cm/min、ハードコート層：12cm/minの引き上げ速度で浸漬法にて塗布を行なった。プライマー塗布後100℃で20分間風乾した後ハードコートを塗布し230℃で30分間焼成を行なった。このようにして得られた硬化被膜の厚みはプライマー層は約3ミクロン、ハードコート層は約2.5ミクロンであり、染色性に優れたものであった。

【0024】（4）反射防止薄膜の形成

得られたレンズを真空蒸着機（シンクロン（株）製：CES-34）にセットして 8×10^{-6} torrまで排気した。

【0025】イオンクリーニングを真空槽の圧力が 5×10^{-4} torr以下の状態で、イオン銃（シンクロン（株）製：RIS-120）の加速電圧500V、基板上の電流密度を $30 \mu\text{A}/\text{cm}^2$ として酸素ガスイオンで60秒間処理した。

【0026】基板から大気にむかって順に材料と（光学膜厚）が SiO_2 （0.08λ）、 ZrO_2 （0.15λ）、 SiO_2 （0.05λ）、 ZrO_2 （0.25λ）、 SiO_2 （0.25λ）の5層からなる反射防止多層膜を真空蒸着法にて、成膜温度60℃の条件で膜形成を行った。なお、設計波長λは520nmとした。

【0027】（5）試験および評価結果

得られたレンズをそれぞれ次に述べる方法で試験を行ない、その結果を表1に示した。

【0028】（a）耐摩耗性：ボンスター#0000スチールウール（日本スチールウール（株）製）で1kgの荷重をかけ、10往復、表面を摩擦し、傷ついた程度を目視で次の段階に分けて評価した。

A：1cm×3cmの範囲に全く傷がつかない。

B：上記範囲内に1～10本の傷がつく。

C：上記範囲内に10～100本の傷がつく。

D：無数の傷がついているが、平滑な表面が残っている。

E：表面についた傷のため、平滑な表面が残っていない。

【0029】（b）密着性：基材とハードコート膜およびハードコート膜とマルチコート膜との密着性は、JISD-0202に準じてクロスカットテープ試験によって行なった。即ち、ナイフを用い基材表面に1mm間隔に切れ目を入れ、1平方mmのマスを100個形成させる。次に、その上へセロファン粘着テープ（ニチバン（株）製 商品名「セロテープ」）を強く押し付けた

10 後、表面から90度方向へ急に引っ張り剥離した後コート被膜の残っているマス目をもって密着性指標とした。

【0030】（c）耐候性：キセノンランプによるサンシャインウェザーメーターに400時間暴露した後の表面状態に変化のないものを良とした。

【0031】（d）耐熱性（冷却サイクル性）：70℃の温風中に1時間保存した後表面状態を調べた。更に-5℃で15分、60℃で15分のサイクルを5回繰り返して、表面状態に変化のないものを良とした。

20 【0032】（e）耐湿試験：60℃×99%雰囲気中10日間放置した後表面状態に変化のないものを良とした。

【0033】（f）耐久性：耐久性は本質的に密着性の接続であると考え、（c）から（e）の試験を行なったものについて、上記のクロスカットテープ試験を行ないコート膜に剥離のないものを良とした。

【0034】（g）染色性（ハードコートレンズのみ）：92℃の純水1リットルに、セイコーブラックスダイヤコート用染色剤アンバーDを2g分散させ染色液を調整した。この染色液に、30分間浸漬させ染色を行ない、染色ムラがなく、かつ全光線透過率が染色前と染色後の差が50%以上のものを良とした。

【0035】（h）変色・退色試験：染色したレンズをキセノンランプによるサンシャインウェザーメーターに40時間暴露した後、目視にて変色、退色の評価を行なった。

【0036】（i）耐衝撃性試験：16.3gの硬球を127cmの高さからレンズの中心に落下させ、レンズの割れを確認した。

【0037】（実施例2）レンズ生地素材としてウレタン樹脂を主成分とするセイコースーパールーシャス素材を使用した以外は実施例1と同じ条件で表面処理加工を行った。

【0038】得られたレンズを実施例1と同様な方法で試験を行ない、その結果を表1に示した。

【0039】（比較例1）実施例1と反射防止膜の膜構成が SiO_2 （0.50λ）、 ZrO_2 （0.15λ）、 SiO_2 （0.05λ）、 ZrO_2 （0.25λ）、 SiO_2 （0.25λ）と異なる以外は同じ条件で表面処理加工を行った。得られたレンズを実施例1と同様な方法で試験を行ない、その結果を表1に示した。

【0040】（比較例2）実施例1とプライマー層を設けないこと以外は同じ条件で表面処理加工を行った。得られたレンズを実施例1と同様な方法で試験を行ない、*

* その結果を表1に示した。

【0041】

【表1】

評価項目	実施例1	実施例2	比較例1	比較例2
(a) 耐摩耗性	A	A	A	A
(b) 密着性	100/100	100/100	70/100	100/100
(c) 耐候性	○	○	○	○
(d) 耐熱性	○	○	○	○
(e) 耐湿試験	○	○	×	○
(f) 耐久性	○	○	×	○
(g) 染色性	○	○	○	○
(h) 変色・退色試験	○	○	○	○
(i) 耐衝撃性試験	○	○	○	×

【0042】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明により、各種耐久性（耐摩耗性、耐候性、耐温水性、耐薬品性、耐熱性、耐衝撃性等）および染色性に優れた反射防止膜付※

※合成樹脂レンズを提供することを可能とする。特に、反射防止膜付合成樹脂レンズの欠点である染色性および耐衝撃性の両方の向上を実現した。